

あおもり漁連

故 植村正治氏 書

甦れ!! 協同組合運動

No.
160



風間浦村のキアンコウ（下風呂漁協）

CONTENTS

県内系統・関係機関・年頭ごあいさつ	1
全国系統団体・年頭ごあいさつ	6
哀悼	8
漁協組合長・筆頭職員研修会開催	10
JF全国代表者集会開催	11
県漁連・信漁連合同地区別会議開催	13
平成26年度漁協運動功労者、第5回ぜ～んぶあおもり大農林水産祭	15
補助事業等進捗状況	16
海難防止技術競技会陸奥湾大会開催	17
第41回「海をきれいにする運動」入賞作品紹介	19
水産に関する主な動き（8月～12月）	22

2015. 1

資源・金融・共済の三本柱推進

平成二十七年 県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長

赤 石 憲 二

平成二十七年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員はじめ関係の皆様には、日頃より当連合会の業務運営に対し、格別なるご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、漁業者の減少と高齢化、さらには燃油価格高騰の常態化、水産物の消費低迷、加えて東日本大震災や原発事故の風評被害問題等、長引く漁業環境の低迷により日本の漁業は一層深刻な状況となっております。このような状況の中、昨年十一月二十一日、全漁連が主体となり「JF全国漁業代表者集会」が開催されました。

集会には、全国から漁業者代表約五百名が参加し、今後五年間のJFグループの運動方針として「浜の活力再生」、「組織・事業基盤の確立と人づくり」、「漁村活性化に向けたJFグループの役割発揮」の三本柱からなる「水産日本の復活に向けて―JFグループの挑戦」が採択さ

れました。さらに、特別決議として水産政策の確立と燃油価格高騰対策および漁業用軽油にかかる免税措置の堅持を求めて行く事が採択されております。

本会と致しましても、浜の活力再生にむけて、改革は待ったなしと心得、JFの原点・役割・使命を再認識し、更なる活動を展開して参りますので、皆様には今後ともご協力をお願い申し上げます。

さて、本県の漁業につきましては、昨今のホタテ貝のへい死・成長不良や、スルメイカをはじめとする本県主要魚種の漁獲不振が恒常化し、さらに消費減退による魚価の低迷、燃油・漁業資材等の価格上昇など、漁業経営が極めて厳しい状況にあることから、沿岸・沖合漁業の共存共栄が可能な「水産資源の確立」、漁業者の所得安定のための「漁業金融の円滑化」、「漁業共済の加入促進」の三本柱の実践による循環

型漁業構築を強力に推進するとともに、丈夫で高品質なほたて貝づくり、共販体制の強化、省エネ対策等の推進、生産コストの削減等の推進に努めていかなければならないと、改めて意を強くしているところであります。

いま、国際的な水産物需要の拡大や、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録など、日本の漁業を取り巻く情勢に変化の兆しがでていることは、誠に幸いなことであります。是非とも、これを好機ととらえ、本県水産物の消費拡大に更に努めて参ります。

青森県は約七千キロの海岸線を持ち、三方を海に囲まれ水産資源が豊富な県であります。その恵まれた資源と環境に感謝し、水産物を安全・安心な食料として将来にわたり安定的に供給することが、私達の使命であります。協同組合運動精神の原点に立ち返り、そして浜の声を聞き行動を共にし、本県漁業・水産業の安定と発展に寄与すべく業務に邁進して参りますので、関係各位におかれましては、特段のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、この一年の皆様のご健勝と海上安全を祈念申し上げ、そして救命胴衣着用推進へのご協力をお願い申し上げます、年頭の挨拶と致します。



青森県農林水産部

水産局長

松 宮 隆 志

明けましておめでとうございます。

本県水産業の振興と発展に御尽力いただきありがとうございます皆様謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

昨年の本県水産業は、前年に比べると県内全体の漁獲量が持ち直し、回復の兆しが見えてきました。被災した八戸港においては、水揚げ金額が三年ぶりに二百億円を超え、さらに、第五十一開洋丸がシップ・オブ・ザ・イヤーを受賞するなど創造的復興へ向け、面白い話題が多くありました。しかしながら、平年に比べると漁獲量・金額ともに未だに低調で、魚価の低迷に加え、燃油及び資材価格の高止まりが続くなど、水産業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

このため県では、地域特産水産物の消費・流通の拡大を図るため、「攻めの農林水産業」の

推進基本方針に基づき、物流関連企業と連携した空輸による遠隔地への高鮮度出荷による新たな流通経路・手法の構築を図っているほか、本県水産物に関する生態や漁法、エピソードなどの情報を発信することで新たな地域、流通グループに対し、本県水産物の魅力を知ってもらえるよう、PRに努めるなど、市場ニーズを踏まえた高付加価値ブランド製品づくりに取り組んでいるところです。昨年、「風間浦村鮫鰯」が「大間まぐろ」に次ぎ、地域団体商標として登録され、また、「陸奥湾ほたて」、「深浦マグロ」が全漁連でプライドフィッシュに選定されるなど、本県水産物の魅力が全国的に認知されるようになり、大変うれしく思っています。

また、昨年は全国的にクロマグロやニホンウナギの資源管理について取りあげられました。が、去る平成二十六年十一月十五、十六日に開

催された第三十四回全国豊かな海づくり大会において、小川原湖漁業協同組合のシジミ資源管理に対する取組と県小型いか釣り漁業協議会のスルメイカ資源管理に対する取組が資源管理型漁業部門で大会会長賞と農林水産大臣賞を受賞しました。県では、「攻めの農林水産業」において、つくり育てる漁業や資源管理型漁業の推進に力を注いで参りましたが、今回、本県の資源管理に対する取組が全国的に評価されたことは県としても誇らしく、漁業関係者の方々の御努力に敬意を表します。

県といたしましては、本県の水産業が地域の産業・経済を幅広く支える重要な基幹産業であるとの認識のもと、今後とも水産業に携わる皆様と一丸となって本県水産業を盛り上げ、更なる発展を目指し、各種施策に取り組みでいきますので、関係者の皆様におかれましては、より一層の御理解と御協力をよろしくお願い致します。

結びにあたり、皆様のますますの御健勝と御繁栄、そして操業の安全を心からお祈りいたしまして、新年の御挨拶といたします。

西崎義三



青森県漁船保険組合

組合長理事

福島 哲男

新年明けましておめでとうございます。
平成二十七年の新春を迎え、組合員、漁業協同組合、水産関係団体の役職員の皆様に心から新春のお慶びを申し上げます。

平成二十六年の漁業・水産業界を取り巻く環境をみますと、水揚げの減少、魚価の低迷、後継者不足、さらには急激な円安による燃油高騰など一層厳しい一年でありました。

漁船保険業界は、漁船の減少、漁業者の高齢化など漁船漁業を取り巻く厳しい環境の中、漁

船保険組合の経営基盤である加入隻数、保険金額の漸減を余儀なくされております。また、未曾有の災害となった東日本大震災から今年三月で四年が経過致しますが、今後、発生することが予測されている東海・東南海・南海地震などの南海トラフを発生源とする地震では、西日本の太平洋側に広範囲に津波被害をもたらすとされておき、その被害額は、東日本大震災の十倍を超える規模に達すると言われております。そのため、漁船保険制度が今後も引き続き漁業者

のための保険として有効に機能するために、漁船保険組織の財政基盤を強化し、より合理化・効率化された組織体制が必要となり、全国の漁船保険組織と漁船保険中央会を一元化し、統合された漁船保険組織として再編することに對する決議を平成二十六年三月十日開催した臨時総代会にお諮りし決議頂きました。この決議を受け、平成二十九年四月の一元化に向けての組織作り、また、法改正などの協議を重ねているところであります。

漁船保険は、継続加入船の高船齢・高機齢化が進み、今後も経年損耗に起因する事故の発生により保険金の支払も増加するものと思われませんが、漁船保険組合は今後とも漁船保険の使命である「漁家経営の安定に資する」の目的を達成するため、保険金の早期支払、未加入漁船の加入促進、事故防止事業の充実等事業の推進を図ってまいります。

終りに、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



青森県漁業共済組合

組合長理事

三津谷 廣明

これからも『ぎよさい』と『積立ぷらす』の活用を

青森県の漁村の皆様、明けましておめでとうございます。

新春にあたり、皆様の本年のご多幸を心より

祈念申し上げます。

さて、『ぎよさい』は台風等の自然災害による被害や不漁・魚価の低迷などによる損失を補

償し、漁業経営の再生産と安定を支える事業として昭和三十九年に開始され、制度創設五十周年に当たる昨年十月には、本県をはじめ全国から多数の関係者参集のもと、漁漁連主催により「ぎよさい創設五十周年記念大会」が開かれました。『ぎよさい』が無事五十年を迎えられたのも、ひとえに漁業者の皆様のご理解と漁協系統団体、行政庁など関係各位のご尽力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

また、近年では『ぎよさい』と『漁業収入安定対策事業（積立ぷらす）』が漁業経営の安定を目的とする国の重要な水産施策の一つに位置づけられ、手厚い支援措置が講じられており、

ぎょさい団体では行政庁や漁業関係団体と連携しつつ、組織を挙げて『ぎょさい』と『積立ぶらす』の普遍的な加入と定着を目指して取り組んでいるところです。その結果、平成二十五年度本組合の加入実績は共済金額百七十三億円の高い実績となり、積立ぶらすの契約件数においては、前年度に引き続き全国第二位の実績を上げることができました。

平成二十六年四月からは、普及推進全国運動「しっかりと加入で安心経営」がスタートし、ス

ローガン「これからも『ぎょさい』と『積立ぶらす』を掲げ、本組合においてもそれに呼応した加入推進活動を展開中であります。本県漁業者の皆様のご理解により、今年度上半期には共済金額五十四億円(前年度同期比約二億円増)のご加入を頂きましたが、今年度目標の共済金額百八十億円、漁業者積立金額六億四千万円の達成に向け、引き続き加入推進に努めて参ります。

現在、全国はもちろん本県でも、水産日本の



農林中央金庫青森支店

支店長

松 浦 康 史

県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体の役職員の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

また、漁協系統事業全般にわたる皆様の日々のご努力に対しまして、深く敬意を表しますとともに、私ども農林中央金庫の業務につきまして、平素より特段のご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、漁業情勢につきましては、ご高承のとおり水揚げ不振や魚価低迷が続く中、業界を挙げて省エネや経費節減に懸命に取り組んでいるところではありますが、円安等による燃油価格高騰

といった窮境からの脱却を見通すことができない厳しい状況が続いております。特に、本県におきましては、主要魚種であるホタテガイの高温による漁獲高低迷が和らぎ、回復の兆しもある一方で、スルメイカの水揚げ数量は、依然として低迷しており、漁業者の所得減少のみならず、漁業経営意欲の減退による漁業人口の減少等が憂慮されるところであります。

わが国経済に目を転じますと、デフレ脱却や成長促進を目指す「アベノミクス」の実践により、大規模な金融緩和政策、いわゆる「異次元緩和」がなされ、長短金利がともに低位で留ま

復活に向けた浜の活力再生プランの作成やプライドフィッシュ・プロジェクトなどの新たな取組が実施されていますが、本組合は『ぎょさい』と『積立ぶらす』が災害対策・経営安定対策の役割を十分発揮し、漁業経営の大きな支えとなるよう、心を新たに取り組んで参ります。

本年は本組合設立五十周年の節目の年でございます。皆様には変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

る中、円安・株高傾向が強まっております。一方で、国内総生産のマイナス傾向や、消費税増税の先送り、米国の金融引締めを巡る市場の思惑等もあり、先行きが見通しづらい状況であります。また、TPPにつきましては、日米協議は最終局面であるという報道がなされており、今後の日米協議如何によつては、漁業者へも影響を及ぼすことが懸念されるなど、依然として交渉の動向に注視が必要な状況となっております。

このような厳しい情勢の中、協同組織の漁業専門金融機関であるJFマリンバンクといたしましては、貸出・相談機能等の役割を持続的に発揮することが求められます。不断の取組みとして、漁業金融機能を強化し、浜と地域社会の発展への貢献を通じて浜の暮らしを守ることが、果たすべき使命と捉えております。このため、昨年度から事業基盤確保を図るべく、コンビニATM平日日中無料化の実施、さらに、今

年度から、定期貯金や給与振込口座指定等を対象にした「全国統一キャンペーン」の展開など、これまでも増して、家計メイン口座化を促進できるような、事業推進に取り組んでおります。

また、農林水産業と食の発展や地域の活性化に貢献できるよう、青森県独自の取組みとして、農協や森林組合との連携により、「県産材を使用して住宅を建築し、かつJF（JA）住宅ローンを利用した方」に対し、青森県産の農水産物を贈呈する「協同組合間連携企画」に取り組む

始めたところであります。

その一方で、金融業界全体としては、反社会的勢力等の排除に向けた取り組みや不祥事の発生未然防止等、コンプライアンスにかかる社会的要請が益々高度化しており、単に法令の遵守に留まらず、社会からの期待や要請に適切に応えていくことが求められております。当県では、青森県信漁連を中心とした信用事業の安定的な運営体制が構築されており、私も農林中央金庫といたしましても、引き続き、JFマリンバ

ンクの利用者の負託に応え、「浜の暮らしを守る信頼の金融」の実現のために微力ながらお手伝いさせていただく所存であります。皆様の一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年の豊漁と、県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体役職員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成二十七年 全国系統年頭ごあいさつ



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長

岸

宏

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、全国津々浦々でご活躍中の組合員並びにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

改めて申し上げるまでもなく、漁業を取り巻く情勢が大きく変化している中、JFの原点、役割、使命が今、大きく問われております。

JFの原点は「浜」にあり。「浜」の安定化なくして、JFの健全経営はありません。JFの健全化なくしてJFの役割発揮もありえません。そのため、我々は昨年十一月にJF全国代表者集会を開催しました。そこで「浜の活力再生」「組織・事業基盤の確立と人づくり」「漁村活性化に向けたJFグループの役割発揮」の三つ

の柱とした五か年の運動方針「水産日本の復活」に向けたJFグループの挑戦」をグループの総意のもと採択し、浜の再生と浜の活力を取り戻すことを誓いました。

浜の活力再生プランを完遂し、浜が自ら変わることが、我々が求める政策の実現につながり、JFの存在が国民に認知され、その負託に応えることとなります。

水産日本の復活に向け、本会では昨年より全国的に「プライドフィッシュプロジェクト」を展開し、そして今年はシンガポールに将来のJFグループの輸出拠点となる店舗の開店を予定しています。また、全国の浜々では省燃油型漁業の実践、漁獲物の付加価値向上のための農商工連携、六次産業化などの取組みが広がって

ます。

各地でのこうした貴重な取り組みがある一方、昨年十一月に北京で閣僚会議が開催されたTPPについては、依然として重要な情報の開示がなされておらず予断をゆるさない状況が続いています。我々としてもこれまでの主張のとおり

主要品目の関税、漁業補助金の維持を政府・与党に強く求めて参らなければなりません。

全国の組合員並びにグループの皆様におかれましては、その英知と総力を運動方針の実践を通じて水産日本復活への果敢なる挑戦に結集していただきたくお願い申し上げます。

最後になりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。



全国共済水産業協同組合連合会

代表理事会長

鎌田 光夫

平成二十七年の年頭にあたり

―目標達成を期して―

明けましておめでとうございます。

皆様方には、日頃からJF共済の普及推進活動に熱心にお取り組みいただき心よりお礼を申し上げます。年頭にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

さて、このところの景気後退懸念が高まる中、JF共済を取り巻く環境も、急激な円安による燃油高騰と不安定な魚価状況、原発事故による

風評被害、また、TPP参加への不安等、深刻な課題が山積しております。

こうした厳しい環境の中、平成二十六年度を初年度とするJF共済の第三か年計画がスタートしました。この三か年計画では、とくにチョーコーについては保有契約量の減少傾向に歯止めをかけることを目的とした事業量目標を設定しており、この目標の必達をはかるため、①組合

員等利用者ニーズに対応した保障提供、②東日本大震災被災JFの復興支援、③万全な共済実施体制の確立、④元気で活力のある漁村・地域づくりの支援、といった主要施策を着実に実行し、JF共済事業の健全性強化をはかることとしております。

このため全国のJFにおかれましても、JFが持つ最大の強みである協同の力を発揮され、全戸訪問を基調とする保障点検活動を展開し、チョーコー新医療共済「匠」を前面に打ち出した新規契約の確保等、精力的な共済推進活動に取り組んでいただいているところであります。

いっぽう、JF共水連では平成二十四年度から三か年の増資計画をすすめているところでありますが、非常に厳しい事業環境の中、これまでに増資目標額の九十五%以上ものお引受をいただき、さらには、各準備金の充実強化もあつ

哀悼

て、七百%を超えるソルベンシー・マージン比率を確保することができました。

加えて、昨年の七月からJF系統方針として、二年間限定で行っている漁業者年金の「一括払制度」の選択状況は、JFにおけるきめの

細かな個別ご案内が奏功し対象者の約五十五%（二十六年十一月末）の方が選択されています。併せて皆様方には特段のご理解とご尽力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

今後も一層の経営の健全性・信頼性の確保に努め、組合員・利用者の負託に応えてまいりたいと存じますので、皆様方には引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

当連合会元代表理事会長 植村正治殿

平成二十六年十二月二十三日ご逝去されました 謹んでご冥福をお祈り申し上げます
葬儀につきましては 十二月二十七日
二十八日 植村家 JF全漁連 JF青森
漁連 JF青森信漁連 青森県漁業信用基
金協会 JF平内町漁協の合同葬として執
り行いました

葬儀に際しましては ご多忙の中ご会葬
賜りましたことを 衷心より厚く御礼申し
上げます

青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長 赤石 憲二

当協会理事長 植村正治殿 平成二十六

年十二月二十三日ご逝去されました
葬儀に際しましては ご多忙中にもか
わりませずご会葬賜りましたことを 衷心
より厚く御礼申し上げます
早速拝趨の上御礼申し上げるべきところ
誠に略儀ながら書中をもちましてご挨拶
申し上げます

青森県漁業信用基金協会

理事長職務執行者

専務理事 米 谷 聡

当連合会理事 濱端廣文殿 平成二十六

年十二月二十七日ご逝去されました
葬儀につきましては 一月十六日 十七
日 濱端家 JF大間漁協の合同葬として
執り行われました 謹んでご冥福をお祈り
申し上げます

青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長 赤石 憲二



謹 賀 新 年



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長

赤 石 憲 二

副会長理事

三津谷 廣 明

専務理事

小 出 政 明

理 事

角 田 順 一

〃

木 浪 昭

〃

川 村 敏 博

〃

二 木 春 美

代 表 監 事

工 藤 伍 郎

監 事

山 口 隆 治

〃

岡 沼 明 見

ほか職員一同

青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長

西 崎 義 三

ほか役職員一同

青森県漁業信用基金協会

理事長職務執行者 専務理事

米 谷 聡

ほか役職員一同

青森県漁船保険組合

組合長理事

福 島 哲 男

ほか役職員一同

青森県JF共済推進本部

本 部 長

三 國 優

ほか役職員一同

青森県漁業共済組合

組合長理事

三津谷 廣 明

ほか役職員一同

(一社) 青森県漁港漁場協会

代表理事

越 善 靖 夫

ほか役職員一同

漁協組合長・筆頭職員研修会 開催

去る、12月17日、青森県水産ビル7階大会議室において、青森県漁連、青森県信漁連、青森県経対協の主催による漁協組合長・筆頭職員研修会を開催致しました。

研修会は、112名が参加し、講師に農林中央金庫本店コンプライアンス統括部長 後藤正純氏、全漁連信用・組織指導部長 石川和彦氏を招きご講演いただきました。



開催にあたり、県漁連赤石会長より「厳しい現状を県漁連・信漁連ほか各系統団体が、共通認識し、将来のため合併・事業統合を視野に入れた組織再編に取組んで行かなければなりません。本日は、コンプライアンスの遵守、JF新運動方針の実践を確認していただくため、また、昨今厳重な管理が求められております個人情報情報の取扱いについて、ご周知いたしたく研修会を開催する運びとなりました。」と挨拶し、研修会に入りました。後藤部長よりコンプライアンス研修ということで、コンプライアンス態勢の構築と役員責任について事例を交えながらご講演いただきました。石川部長からは、JF新運動

講 師



農林中金 後藤部長



全漁連 石川部長



参 加 者



赤石会長挨拶

方針について、本県重要課題である合併・事業統合等組織再編、また信用店舗再構築・広域信漁連構想についてご講演いただき、最後に個人情報取扱いについて保護法の概要や管理方法についてご講演いただきました。参加者は今後の業務運営に生かせるよう講演に聞き入っていました。

「JF 全国代表者集会」開催



去る11月21日、JF全漁連主催による「JF全国代表者集会」が東京・霞ヶ関のイイノホールにおいて、全国のJF代表者約500人（本県から、赤石会長他19名参加）が集結して行われた。

集会は、小川JF全漁連副会長（JFいしかわ組合長）の開会宣言で始まり、森JF全国女性連会長のリードでJF綱領の唱和をした。

次に、主催者を代表して岸JF全漁連会長が「JFの原点は浜、漁業、漁業者である。しっかりと変わっていくためには全国で取組んでいる浜プランの作成が成功の鍵で、今年度中には全地域で策定し、JFグループ組織が一緒になって、着実に実践していきたい。本日の集会で提案する新運動方針には、水産日本の復活に向けてJFグループの挑戦についてを採択し、JFグループの総力を挙げて実践すること、浜の活力と賑わいを取り戻していくことになる。

ここ数年で漁業を再生し、水産日本が復活し、漁業者が元気になる最後の機会ととらえ、それぞれの地域で運動方針を実践して頂きたい。」と挨拶した。

来賓として、小泉農林水産副大臣は「全国の浜を支える中核的組織として、現場で一層の取り組みが必要である。」と述べ、石破地方創生

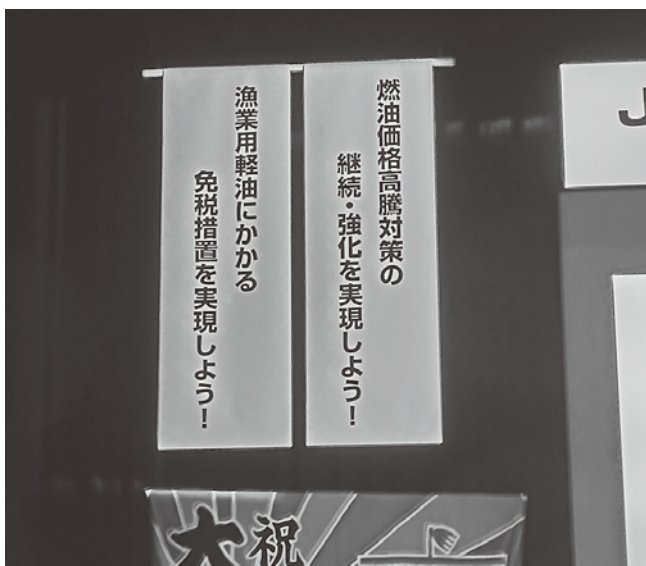
担当大臣は「これからの日本を支えるのは地方である。浜が日本の再生に大きな役割を果たすよう、ともに頑張ろう。」と檄をとばした。また、竹下復興大臣は「JFグループが一丸となつて水産業の復活に取り組むことはとても心強い。被災地の復興が一日も早く進み、被災者が希望を持てるよう全身全霊を傾けて取り組むんでいく。」とそれぞれ挨拶した。

挨拶終了後、運動方針の提案・DVDの上映が行われ、意見表明をJF広田湾（岩手県）砂田組合長とJF尾鷲（三重県）岩本常務が行った。砂田組合長は「被災地域のJFグループが、早期復興を成し遂げることこそが、これまで支援をいただいた全国のJFグループへの恩返しになる。未来へと繋ぐ漁村地域の活性化に寄与するため、十分に体力を兼ね備えたJFの実現を目指して取り組んでいく。」と誓った。また岩本常務は「運動方針にある浜の活力再生は、漁業者一人一人が行動を起こし、浜プランを展開することが、漁村の再生、ひいては強い水産日本の復活に繋がると信じている。」と表明した。

つづいて、菅原JF全国漁青連会長が運動方針（案）を読み上げ、満場の拍手で採択された。この後、川崎JF全漁連副会長（JF北海道会長）が特別決議（案）「JFグループは、浜

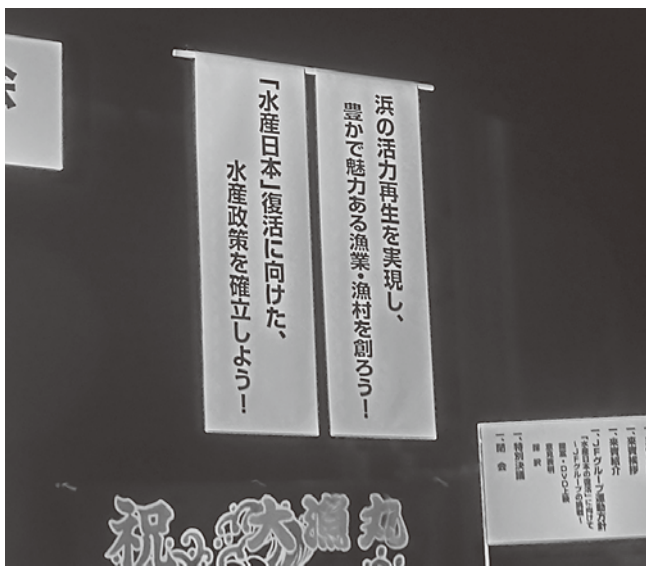


本県参加者



プランの実践により、自ら「浜の活力再生」に全力で取り組むとともに、水産政策を確立し、「水産日本の復活」の実現に組織の総力を挙げて挑戦することを決議する。」と朗読し、満場一致で採択され、永富JF全漁連副会長（JF三重漁連会長）の閉会の言葉で終了した。

引き続き、燃油価格高騰対策及び漁業用軽油にかかる免税措置の堅持を求める全国漁業代表者集会に移行し、岸JF全漁連会長より「昨年度は燃油が高騰し、漁業コスト構造改革緊急対策を措置していただき、燃油の使用量に応じて助成金を交付する今までにない政策ができた。改めて政府・与党にお礼を申し上げる。」と述べ、更に、「我々漁業者は、燃油価格に振り回されない強い漁業の構築に取り組んでいるが、さら



なる円安の進行で燃油価格が高止まりし、漁業経営は極めて厳しい状況が続いている。浜の再生は一朝一夕では成し遂げられない。何としても燃油価格高騰対策については3ヶ年の継続と、今年度末に期限が切れる漁業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置を実現していかなければならない。」と挨拶した。

森友JF全漁連総合対策部会長（JF山口組合長）が特別決議を朗読し、①漁業コスト構造改革緊急対策の継続・強化を図ること、②漁業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置を堅持することを満場の拍手で採択した。

最後に、「燃油価格高騰対策の継続・強化」「漁業用軽油にかかる免税措置の堅持」などを求め、シブレヒコールを行い、代表者集会を終えた。

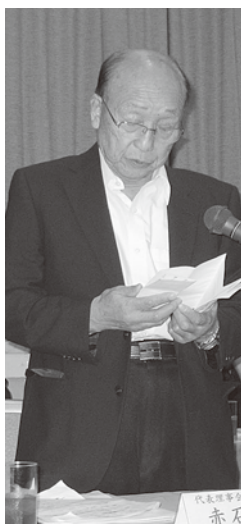
県漁連・信漁連合同地区別会議開催

去る、9月8日から19日の4日間において、県内4地区に分け県漁連・信漁連役員と組合長・筆頭職員との地区別会議が開催されました。

今回の地区別会議は、6月の役員改選において新役員体制となり、「浜の声が一番重要」との思いで、県漁連、信漁連と合同で地区別会議を開催することとなりました。



信漁連 西崎会長挨拶



県漁連 赤石会長挨拶

案件については、JFグループの運動方針（2015～2019年度）について、全国のJFが丸となって取り組むということで全漁連が示した運動方針の骨子を説明し、4地区ともに承認されました。また、県漁連・信漁連の5ヶ年の基本方針も示され、会員に理解を求めました。

開催日時・場所

西北地区：平成26年9月9日(火) 午後1時 鯉ヶ沢町「ホテルグランメール」	出席数 44 名
むつ湾地区：平成26年9月8日(月) 午後1時 青森市「青森県水産ビル」	出席数 49 名
下北地区：平成26年9月19日(金) 午後1時 むつ市「むつグランドホテル」	出席数 52 名
三八地区：平成26年9月18日(木) 午後1時 八戸市「八戸グランドホテル」	出席数 52 名



西北地区



むつ湾地区



下北地区



三八地区

JFグループの運動方針

－ 3つの柱 －

- 取組の基本は、「浜の活力再生」。
- 浜の再生を通じ、JFの「健全経営」、「役割発揮」につなげる。

- ・「浜の活力再生」（浜プランは必須ツール）

JF組織の原点は、漁業生産と漁業者。
水揚げの安定なくしてJFの健全経営はあり得ない。

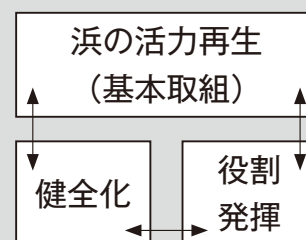
- ・「組織・事業基盤の確立と人づくり」（健全化）

JFの健全化なくしてJFの役割発揮はあり得ない。

- ・「JFの役割発揮」

漁業者の取組を積極的支援。
役割発揮を通じて、豊かで暮らしやすい漁村社会を実現。

<運動方針のトライアングル>



青森県漁連5ヶ年の基本方針

- 目 標 漁家・漁協経営の安定

- 基本方針（目標達成のための行動指針）

1 漁業経費削減への取組

- | | |
|---------------|-------------------------|
| (1) 燃油高騰対策 | セーフティーネット事業拡充・継続、省エネ推進等 |
| (2) 漁業用燃油課税軽減 | 軽油・A重油免税措置恒久化等 |
| (3) 購買事業推進 | 系統購買充実、補助事業活用等 |

2 魚価向上への取組

- | | |
|--------------|-------------------|
| (1) 一元集荷体制強化 | 市場統合、拠点市場設置等 |
| (2) 販売事業改善 | 衛生管理・産地表示徹底、規格統一等 |

3 漁協再編への取組……信漁連・経対協・行政との連携

- | | |
|--------------|-------------------|
| (1) 漁協経営指導強化 | 新一般監査実施、改善計画策定支援等 |
| (2) 合併推進 | 新たな基本計画策定・実践 |

4 目標達成に向けた政策要望

平成26年度 漁協運動功労者



J F 大 間

代表理事組合長

濱 端 廣 文

<功績内容>

中学校卒業と同時に、一本釣り漁業に従事。現在ブランド化されている「大間まぐろ」の先駆者として活躍する。昭和56年大間漁業協同組合監事に就任。平成11年及び平成18年には代表理事組合長に就任し、指導力と統率力を発揮し、漁協経営に努め現在に至っている。平成18年に代表理事組合長に就任した際には、「大間まぐろ」の地域団体商標登録に取り組み、大間まぐろのブランド化を確立させ、魚価安定に努めた功績は多大である。

※濱端廣文殿におかれましては、平成26年12月27日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

第5回 ゼ～んぶあおり大農林水産祭 開催

前回から本会が主催に加わっている、ゼ～んぶあおり大農林水産祭が5回目を迎え11月8、9日、青森産業会館で開催されました。会場では、海の市、JAふるさと市、産直市等97店が出店しました。

初日のオープニングセレモニーから始まり、抽選会、試食会、ゆるキャラ応援隊の大集合、本会で行なったマグロ解体ショーのイベントで会場を盛り上げました。

当日は、寒い中2日間で26,000人ほどの来場者で大いに賑わいました。



会場風景



本会ブース

本会ブース人気商品 ベスト3

- 1 位 大間産本マグロ
- 2 位 ダシ昆布
- 3 位 生スルメイカ

「浜の活力再生プラン」「省燃油活動推進事業」 並び「セーフティーネット構築事業」

(1) 浜の活力再生プラン

趣 旨

水産業の成長産業化を図るため、浜ごとの特性・資源状況等を踏まえ、国産水産物を消費・輸出拡大し、適切な資源管理等を通じた収益性の高い維持可能な漁業・養殖業の維持を図るとともに、所得・経営力の向上を図る必要があります。

このためのも、漁村が現状の問題・課題を認識し、その漁村の関係者が一体となり、漁業者の所得向上の実現に向けた具体的な「プラン」を策定し、漁業者の所得向上を実現させ、漁村の活性化を図るものである。

今後、国の水産補助事業の活用には「プラン策定」必須要件（優先採択）

《平成26年11月末現在》

「浜の活力再生プラン策定推進事業」

53JF中 37JFが取り組み中

「浜の活力再生プラン承認」

8地区10漁協

中泊地区（小泊・下前）、蓬田村、青森地区（青森市・後潟）、平内町、野辺地町、横浜町、川内、白糠

(2) 省燃油活動推進事業

セーフティーネット構築事業（SN事業）の特別対策への加入者が対象で、SN事業の補てん金のほかに「省燃油活動」を行うグループに対して、燃油使用量に応じて1KL当り7円又は10円を支援する事業。

《事業活用状況》

「省燃油活動推進事業」35JF中 29JF実施中

(3) 漁業経営セーフティーネット構築事業(SN事業)

国と漁業者が毎年積立を行い基金を造成し、燃油価格高騰（一定基準を超えた場合）したとき、四半期毎に国1：漁業者1の負担割合で基金から補てん金が支払われ、漁業経営に与える影響を緩和させることを目的に、平成22年度よりコスト対策として国が手当した事業。

《平成26年度事業活用状況》

「SN事業加入状況」39JF 1,475名加入

平成26年度 補てん単価 第1四半期(4～6月)

15,090円/KL

第2四半期(7～9月)

12,370円/KL

「平成26年度海難防止技術競技会 陸奥湾大会」開催

去る、9月5日（金）平内町小湊漁港において、青森県漁船海難防止・水難救済会 主催による平成26年度『海難防止技術競技会 陸奥湾大会』が開催され、陸奥湾地区7箇所の救難所員と漁協関係者約400名の参加のもと、人命救助に係る海難技術競技及び水難訓練を実施した。

【大会趣旨】

『これまで海難事故防止啓発運動として、海難防止講習会、岸壁への標語ペイント、救命胴衣購入助成、LGL（ライフガードレディース）による救命胴衣の着用推進運動等を展開しておりますが、海難事故は依然として後を絶ちません。

このような啓発運動は当該者が意識しなければ無くならないことでもあり、まずは救難所の活動実態を検証した結果、救難所としての活動が停滞していることが判りました。このことから、救難所の「意識の高揚」と「救難活動の技術向上」を再生することにより、「救難所活動の活性化」を図り、海難事故撲滅を目指すことを目的に平成24年8月に「第1回漁船海難防止・青森県大会」、平成25年10月には「海難防止技術競技会下北大大会」を開催しております。よって、本年度もこの運動を継続し、陸奥湾地区における更なる「救難所活動の活性化」と「海難事故防止への認識強化」を図るため、「平成26年度海難防止技術競技会 陸奥湾大会」を開催するものであります。』

最初に

主催者を代表し、赤石憲二会長（JF 青森漁連会長）より、『本会ではこれまで数々の啓発運動を展開して



赤石会長挨拶

きたが海難事故は依然として後が絶たない。このような運動は漁業者自らが意識しなければ海難事故はなくならない。このことから海難事故撲滅することを目的に一昨年に青森県大会、昨年は下北大大会を開催した。よって本年度もこの運動を継続するため、陸奥湾地区における更なる「意識の高揚」「救難活動の技術向上」「救難所活動の活性化」を図り、海難事故撲滅に努めて行きたい。』と挨拶をした。

次に、来賓として船橋平内町長、青森海上保安部長（谷田次長代読）、青森県水産局長（吉田水産振興課長代読）から挨拶を頂いた。

海難防止安全宣言



横浜町漁協青年部 成田部長



平内町漁協女性部 江戸副部長

海難技術競技会

救難所の技術向上を目指す為の海難技術競技会に、陸奥湾地区の7救難所から総勢112名が参加し、整列競技・消火競技・心肺蘇生競技の3競技について技術を競い合った。

①救難所員整列競技

各救難所から所長以下4名が参加し救難所員としての基本動作が機敏で正確に行われているかを競い合う競技。



整列競技をする脇野沢救難所

②火災船消化競技

各救難所から所長以下5名が参加し基本動作に加え消火作業が正確に行われているかを競い合う競技。



消化競技をする青森市救難所

③心肺蘇生法競技

各救難所から3名が参加し基本動作に加え手順・胸部圧迫・呼吸法が正確に行われているかを競い合う競技。



心肺蘇生競技をする外ヶ浜救難所

水難訓練

合同訓練では、平内町漁協所属船が漁を終え帰港している船舶と、漁に向かう船舶が衝突事故を起こしたという想定で行った。訓練は、平内町救難所と青森海上保安部が合同で行い、対策本部からの指示に従い救助訓練を行った。

①船舶救助訓練



航行不能船救助曳航訓練

②乗組員救助訓練



転落した乗組員の救助

③もやい銃発射訓練



発射訓練をする青森海保

決意表明

平内町救難所 三津谷所長（平内町漁協組合長）から「自分の身は自分で守るという気持ちで救命胴衣の着用を徹底し、本大会の目的である救難所を活性化させ組合員の海難事故に対する意識を高め、犠牲者をこれ以上出さないためにも、この運動を継続し海難事故の撲滅に努める」と決意表明した。



決意表明をする 三津谷所長

講 評

最後に、本日実施した技術競技及び合同訓練について青森海上保安部谷田次長より「本日の大会は、日頃の訓練成果が遺憾なく発揮でき非常に統制がとれておりました。今後、尊い人命と貴重な財産が失われないためにも、今まで以上に海難防止に対する意識の高揚と啓発が必要である。」旨の講評があった。

技術競技結果

総合1位 平内町救難所

総合2位 三厩救難所

総合3位 竜飛救難所



表彰状授与



主催挨拶（吉田水産振興会長）

この「海をきれいにする運動」は、昭和四十八年、ホタテガイの養殖が盛んになってきた陸奥湾をいつまでもきれいに守っていくために、青森県漁業協同組合連合会とむつ湾漁業振興会が取組み始めたものです。

それ以来、毎年続けられており、今年で四十二回目になりますが、平成二十四年度からは青森県水産振興会が引き継ぎ、県内全域の海を対象にすることとしたものです。

県内沿岸域の小・中学校に作品の応募をお願いしたところ、今年は、三十八の小・中学校から七〇三点の応募がありました。

専門審査員による厳正な審査を行い、十一月二十九日に優秀作品表彰式を県水産ビルにて行いました。



第四十二回「海をきれいにする運動」優秀作品表彰式

第42回「海をきれいにする運動」受賞者一覧

【図画 小学校】

賞 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	青森市立奥内小学校	1	奥 谷 皇 輝
準特選	八戸市立小中野小学校	1	中 村 龍 澄
準特選	青森市立沖館小学校	2	津 川 彩 希
佳 作	青森市立奥内小学校	1	村 川 まりな
佳 作	青森市立奥内小学校	2	米 谷 優 里
佳 作	青森市立奥内小学校	2	小 鹿 滯
佳 作	むつ市立川内小学校	2	浜 谷 輝 愛
佳 作	青森市立堤小学校	3	宮 城 凜太郎
佳 作	青森市立浜館小学校	3	澤 田 美 姫
佳 作	青森市立新城中央小学校	4	小 川 晃 平
佳 作	深浦町立修道小学校	5	今 村 和

第37回 全国海の子絵画展へ出展（6名）

【ポスター 中学校】

賞 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	むつ市立大平中学校	2	平 塚 蒼
準特選	平内町立小湊中学校	1	福 地 遥 基
準特選	八戸市立湊中学校	1	熊 谷 風 音
佳 作	平内町立小湊中学校	1	須 藤 水 樹
佳 作	むつ市立大平中学校	1	成 田 光 樹
佳 作	むつ市立大平中学校	2	渡 部 莉 奈
佳 作	むつ市立大平中学校	2	木 下 優 雅
佳 作	むつ市立大平中学校	2	柴 田 彩 佳
佳 作	むつ市立大平中学校	3	工 藤 菜々子
佳 作	青森市立浪打中学校	3	小 野 竜太郎

【ポスター 小学校】

賞 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	むつ市立第一田名部小学校	5	高 谷 翼
準特選	むつ市立川内小学校	4	岩 崎 京 介
準特選	むつ市立第一田名部小学校	5	長 谷 海 樹
佳 作	むつ市立第二田名部小学校	1	木 村 蒼 輝
佳 作	外ヶ浜町立平館小学校	2	福 井 琉 斗
佳 作	青森市立浜館小学校	3	今 響 希
佳 作	青森市立浜館小学校	3	唐 川 諒 大
佳 作	むつ市立奥内小学校	4	高 田 純 希
佳 作	むつ市立奥内小学校	5	藤 原 真 由
佳 作	むつ市立第二田名部小学校	5	三 井 勇 人

【作文】

賞 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	外ヶ浜町立三厩小学校	5	田 中 杏 実
準特選	外ヶ浜町立三厩小学校	5	伊 藤 優 斗
準特選	平内町立東平内中学校	1	船 橋 千 洸
佳 作	外ヶ浜町立平館小学校	2	中 村 洸 太
佳 作	外ヶ浜町立三厩小学校	6	小 山 文 太
佳 作	佐井村立佐井中学校	1	樋 口 こころ
佳 作	佐井村立佐井中学校	3	田 畑 有梨沙
佳 作	青森市立浦町中学校	3	盛 音 葉
佳 作	青森市立浦町中学校	3	溝 江 千 明



【標語】

賞 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	佐井村立佐井中学校	1	内 田 玲 奈
準特選	風間浦村立易国間小学校	1	能 渡 一 華
準特選	蓬田村立蓬田中学校	3	福 井 悠 乃
佳 作	平内町立山口小学校	1	千代谷 大 地
佳 作	外ヶ浜町立平館小学校	2	田 中 僚
佳 作	むつ市立奥内小学校	4	工 藤 佑 月
佳 作	むつ市立川内小学校	6	酒 井 翔
佳 作	佐井村立佐井中学校	3	岩清水 千 文
佳 作	むつ市立むつ中学校	3	廣 田 莉 瑚
佳 作	蓬田村立蓬田中学校	3	八 戸 智 暉

第四十二回「海をきれいにする運動」

作文の部 特選 『海を守りたい』

外ヶ浜町立三厩小学校 五年 田中 杏実

「漁師になりたい。」

この言葉は、私がよく口にする言葉です。私のお父さんは、マグロ漁師です。お父さんのお父さんも漁師でした。マグロをつっているお父さんは、とても格好よくて、まるでスーパーマンみたいです。だから、私もお父さんといっしょに海に出てマグロをつる漁師になりたいと思うようになりました。

「漁師になる人がだんだんへっているんだよ。」

と、お父さんがさびしそうに言いました。

「あとつぎもへってきているんだ。」

と、お父さんがぼつりと言いました。私は、魚をとることが好きだし、魚がとれなくても海にただで楽しいので、漁師になると心に決めています。

私は、お父さんの船に乗って、海に出ることもあります。お父さんの船に乗って、一番高いところに上ってみると、ごみがあちこちにあることが見えました。

「だれがごみを捨てたんだろう。」

と、私は言いました。お父さんは、

「最近、海にごみがたくさんあるようになってんだよ。」

と言いました。海には、魚がたくさんいます。その魚がごみを食べてしまったり、ぶつかったりしてしまったり大変です。海にごみがあるのを見て、私はがっかりしました。そのごみを見

ながら、私は四年生で校外学習に行ったことを思い出しました。

四年生の時、私は三厩漁港に校外学習に行きました。三厩の海でどのくらいマグロがつかれるのか、昔と比べて三厩の海はどうなのかなど、いろいろ聞きました。その中で、一番びっくりしたことは、

「青函トンネルを作ってから、マグロは十年くらい三厩の海にはよりつかなくなった。」という話です。

「マグロは、とてもびんかな魚だから、工事の音や工事から出るごみにびっくりして寄りつかなくなったんだよ。」

と、漁港の小林さんが教えてくれました。工事が終わってから、十年くらいはマグロが全く三厩ではつかれなかったそうです。青函トンネルは確かに便利なものだけれど、その代わりにマグロが来なくなってしまったというのを聞いて、人間と海、人間と魚は仲良くできないのかなと心配になりました。

でも、マグロが住みやすい環境をもう一度人間が作ったことによって、

「今は三厩でもたくさんマグロがつかれるよ。」と、小林さんが教えてくれました。私は、ほっとしました。

七月の中ごろ、私は、竜飛海岸清掃に行きました。海岸には、ペットボトル、ロープなどのごみがたくさんありました。私は、「人間が自

分くらいいいだろうと思ってしまったら、またマグロが来ない三厩になってしまう。」と思って、一生けんめいごみを拾いました。

岩の間に、かんこくのコーヒーの空き缶がありました。日本とかんこくは、とても遠いのに、よくここまで流れ着いたなあと思いました。

次々とごみを拾っていくうちに、中国語のような文字が書いてあるペットボトルを見つけました。それを見て、私のごみが飛んで行ってしまったら、他の国に行っているにちがいないと思いました。そして、きつと他の国の人たちも悲しい気持ちになるでしょう。だから、自分のごみはもちろん、ごみが落ちていたら、自分から拾って、海をもっときれいにしようと思えました。そのようにすることで、きつと人間と海は仲良くなれるはずですよ。

海岸清掃が終わって、海を見ました。私は、文太くんに、

「きれいになったね。」

と言いました。みくさんも、

「やったかいがあったね。」

と、言いました。私は、帰る前にもう一度海を見て思いました。

「みんな、一人一人ががんばったから、こんなにきれいになったんだなあ。これからも海を守っていこう。」

私は家に帰って、一緒に海岸清掃をしていた姉に、

「今年のごみは多かったね。」

と言いました。姉は、

「本当だね。でもきれいになってすっきりしたね。」

と言いました。

私は将来漁師になります。その時に、すぐくよごれた海だと魚もいなくなり、ますます漁師が減ってしまいます。いつまでもきれいな海でいられるように海と仲良くし、自分からごみを拾って、大好きな海を守っていこうと思います。



水産に関する主な動き（8月～12月）



月	日（曜日）	事 項	場 所
8月	18日（月）	第1回ホタテガイ高水温対策会議	青森市
	26日（火）	太平洋クロマグロの資源・養殖管理に関する全国会議	東京都
	26日（火）	平成26年度東北・北海道漁協専務参事懇談会	青森市
	29日（金）	むつ湾地区共販推進会議	青森市
9月	2日（火）	青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議監視委員会	青森市
	3日（水）	本会業務部担当理事会	青森市
	3日（水）	本会理事会	青森市
	5日（金）	海難防止技術競技会 陸奥湾大会	平内町
	8日（月）	県漁連・信漁連合同地区別会議（むつ湾地区）	青森市
	9日（火）	県漁連・信漁連合同地区別会議（西北地区）	鯨ヶ沢町
	18日（木）	県漁連・信漁連合同地区別会議（三八地区）	八戸市
	19日（金）	県漁連・信漁連合同地区別会議（下北地区）	むつ市
	27日（土）	全国アマモサミット2014inあおり	青森市
10月	9日（木）	青森県海岸漂着物対策推進協議会	青森市
	10日（金）	本会事業部担当理事会	青森市
	10日（金）	本会理事会	青森市
	10日（金）	漁協販売担当者会議	青森市
	20日（月）	青森県定置漁業協会 全体会議	青森市
	22日（水）	北海道・東北漁船海難防止連絡協議会	札幌市
	23日（木）	第65回全国漁港漁場大会	東京都
	29日（水）～30日（木）	本会監事・監査会	青森市
11月	8日（土）～9日（日）	第5回ぜんぶあおり大農林水産祭	青森市
	10日（月）	クロマグロ資源管理の取組に係る全県説明会	青森市
	12日（水）	青森県港湾・空港整備50周年記念式典	青森市
	13日（木）	東北・北陸ブロック購買推進会議	八戸市
	16日（日）	第34回全国豊かな海づくり大会	奈良県
	18日（火）	青森県ホタテガイ養殖残さ対策協議会	青森市
	21日（金）	J F 全国代表者集会	東京都
	27日（木）	本会事業部担当理事会	青森市
	27日（木）	本会理事会	青森市
	29日（土）	第42回「海をきれいにする運動」優秀作品表彰式	青森市
12月	10日（水）	青森県漁業取締船「うとう」竣工式	青森市
	10日（水）	陸奥湾ナマコ密漁防止緊急組合長会議	青森市
	16日（火）	本会理事会	青森市
	17日（水）	漁協組合長・筆頭職員研修会	青森市

あ と が き

新年あけましておめでとうございます。

「あおり漁連」は、昭和44年6月16日第1号を発行以来、今回で160号を発行することができました。これまでご協力頂きました皆様方に厚く感謝申し上げますとともに、今後とも漁業の情報発信をして参りますので、よろしくお願い致します。

最後に、皆様のご健勝と操業の安全、大漁を心からご祈念申し上げます。

第42回「海をきれいにする運動」優秀作品

《標語の部》

賞 名	標 語	学 校 名	学年	氏 名
特 選	海のゴミ 拾って示す 地域力	佐井村立佐井中学校	1	内 田 玲 奈
準特選	ちかいます たからのうみを まもること	風間浦村立易国間小学校	1	能 渡 一 華
〃	守りぬく 地球の母の 青い海	蓬田村立蓬田中学校	3	福 井 悠 乃

《図画の部》「小学校」

特 選
(全国絵画展出展)



青森市立奥内小学校 1年 奥谷 皇輝

準特選
(全国絵画展出展)



八戸市立小中野小学校 1年 中村 龍澄

準特選
(全国絵画展出展)



青森市立沖館小学校 2年 津川 彩希

《ポスターの部》「小学校」

特 選



むつ市立第一田名部小学校 5年 高谷 翼

準特選



むつ市立川内小学校 4年 岩崎 京介

準特選



むつ市立第一田名部小学校 5年 長谷 海樹

《ポスターの部》「中学校」

特 選



むつ市立大平中学校 2年 平塚 蒼

準特選



平内町立小湊中学校 1年 福地 遥基

準特選



八戸市立湊中学校 1年 熊谷 風音

平成27年1月20日

〈発行〉青森県漁業協同組合連合会 青森市安方一丁目1番地32号 TEL017-722-4211(代)

〈印刷〉青森コロニー印刷